

## 自己評価及び外部評価結果

平成 25 年度

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493800245	事業の開始年月日	平成25年7月1日
		指定年月日	平成25年7月1日
法人名	社会福祉法人 ともにわ会		
事業所名	グループホーム 和が家		
所在地	(〒224-0043)		
	神奈川県横浜市都筑区折本町448-3 豊幸ビル1, 2, 3階		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	26 名
		ユニット数	3 ユニット
自己評価作成日	平成26年1月	評価結果 市町村受理日	平成26年6月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.suketto-c.com/wagaya/">http://www.suketto-c.com/wagaya/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人での10年の運営実績を基に社会福祉法人ともにわ会を設立し、より安定した運営を行えるようになりました。</li> <li>・非常勤ではあるが専任の看護師が勤務しており、毎朝電話での入居者全員の健康状態の確認、毎週1回ホームに来訪し面談による健康管理、24時間の緊急対応を行っています。</li> <li>・内科、精神科、皮膚科、歯科の医療機関と連携し、日々の健康管理及び緊急時の対応を行っています。</li> <li>・ご家族のご希望により重度化の場合の看取りまで行っています。</li> <li>・バランスのとれたお食事を調理専門の職員により提供しています。</li> <li>・料理の好きな入居者の方には、食事の準備を楽しくお手伝いいただいております。</li> <li>・毎月フロア会議を開催し日々の課題をスタッフ全員で協議しそれぞれが共有意識を持ち入居者一人ひとりの生活の安定・心身の健康に配慮した介護を行っています。</li> </ul>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年1月24日	評価機関 評価決定日	平成26年4月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、横浜市営地下鉄新羽駅からバスで6分、バス停から徒歩3分の場所に立地している。バス通りの近辺は倉庫や工場があるが、事業所の近辺から後背地は竹林や古い民家もある住宅地となっている。昨年、運営母体をNPO法人から社会福祉法人に変更し機能を充実強化した。</p> <p>事業所は鉄筋4階建マンションの1～3階に設置されている。4階は同法人の障害者グループホームを開設した。グループホームは1～3階にそれぞれ1ユニットが配置されている。1階が8室、2、3階はそれぞれ9室で計3ユニット26名が利用定員である。ユニット内部は南側にリビングを配し、北側に浴室、トイレ、台所等がある。上下階には階段とエレベーターが利用できる。</p> <p><b>【医療連携体制の充実】</b> 前任の管理者が看護師専任となり、訪問看護師として毎朝、電話で利用者全員の健康状態を確認し、更に毎週、事業所に来て利用者の健康状態をチェックし、健康管理と相談に応じている。24時間、緊急時の対応をしている。医療機関は内科、精神科、皮膚科、歯科と協力医として連携し、それぞれが往診に来てくれるので利用者、家族は安心である。利用者の重度化に伴い、家族の希望があり協力が得られれば、医師の判断で看取りまで実施する体制が整備されている。</p> <p><b>【調理専門職員を配置し介護体制を拡充】</b> 介護職員の中から調理の好きな職員にお願いして9名でシフトを組んで、3ユニットの昼食と夕食を賄っている。みんなで工夫して美味しい栄養バランスのとれた食事を提供している。</p> <p>調理専任制としてからは、介護職員は専ら介助、支援に当たり、利用者や家族から好評である。イベントや外出行事だけでなく、日常の散歩に出る回数も増え、コンビニエンスストアや百元ショップ、近隣の喫茶店へ行くなど、利用者に寄り添い個別に対応する時間が増えてきた。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム和が家
ユニット名	1F, 2F, 3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護現場からよく見えるところに施設の理念を掲げ、常に目に入るようにしており、職員は自然と理念を受け入れており、笑顔が絶えない職場となっている。	「明るく楽しく元気よく」と謳う理念は事務所と各フロアに掲示して職員に周知している。新人にはオリエンテーションで伝え、OJTでは行き詰まった時に理念に立ち返るよう指導している。理念は広く理解され、笑顔の多い事業所となっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩のときに顔を合わせる方々と挨拶を交わすことを心掛けており、度々近所の方から声をかけていただいたり、いただき物をしたりすることがある。近所の方がゴミ捨ての際などに窓越しに声を掛けてくれる。	町内会に加入し、神社のお祭りや地域の盆踊り、どんど焼きを見物し、地域の人々と交流している。地域の防災訓練や清掃活動には職員が参加している。中学生が職場体験で来訪し、介護のボランティアが来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の雇用や運営推進会議の委員となっていただくことで認知症や施設に対する理解を深めていただくとともに近隣への啓蒙も行っていたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催している。町内会の役員、関連施設のスタッフ、利用者の家族、近隣の住民などの方々に委員となっていただき、施設の報告、情報の提供、懸案事項の話し合いなどを行っている。	運営推進会議は2か月毎に、年6回開催している。町内会役員、民生委員、区職員、地域包括支援センター職員、住民、家族が参加している。活動報告の他に避難訓練、癒しペットロボットの導入などで意見交換している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム協議会、ブロック会議、社協の会議等に参加し情報交換や意見交換を行っている。区役所保護課と連絡を密にとり、生活保護受給者の生活支援を行っている。	要介護更新申請代行や生保関係相談に区役所へ出向く際に近況を報告し、連携している。市グループホーム連絡協議会や社会福祉協議会の会議に参加し、情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が正確に理解しているとは言いが、講習会等で知識を深め、入居者の方の尊厳を第一に考え安全安心安楽の介護を心掛けている。身体拘束は一切行っていないが、安全上やむを得ない場合は玄関の施錠を行っている。	外部研修受講者が会議で報告して職員と共有している。3階は外出傾向の方がおり、一時的に施錠することがある。眼の手術をされた方が夜間に患部を触れないよう医師の指導で家族の了解の上、一時的に両手をベッド柵に拘束している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する講習会などで知識を習得し、職員相互にチェックし合い、上記同様、尊厳を第一に考え安全安心安楽の介護を心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会や関係機関等からのヒヤリングを基に適用の必要性を検討し、区の関連部署と連携を図っている。但し、生活保護者については充分とはいえない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時には契約書や重要事項説明書等の内容を十分説明し理解していただき署名捺印をしていただいている。退所時も同様に預り金修繕費などの説明を行い理解していただいている。但し、上記内容で家族にたいしては行えているが、ご本人にはご理解いただけない部分が多く行えていない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族会を開催しご家族からの意見を吸い上げ運営の参考にするよう心掛けている。ケアプランについては適用前にご家族に開示しご家族の意見を反映したものとしている。昨年は社会福祉法人への事業譲渡など諸手続きに時間がとられ家族会を開催できなかった。	家族には普段の様子や暮らしぶりを、毎月詳細にお便りでお知らせして、話題を提供している。家族の来訪時に意見や要望を聞くようにしている。社会福祉法人へ移行を機に、来年度から全体行事の後に家族会の開催を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回フロア毎の会議を開催し管理者と職員の意見交換を図り、月1回の幹部職員による運営会議においてホームの運営に関する意見交換と情報共有を図っている。	毎月のフロア会議や日常業務の中で職員の意見や提案を聞いている。職員の提案で、フロア毎に職員の顔写真とコメントを記載したスタッフポスターを掲示して、家族が職員を分かりやすいようにした。また、毎朝の申し送りに管理者が参加することにした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるような職場環境ではあるが、収益の増加が見込めない現実では個々の実績を評価し給与水準を見直すことは難しい状況である。社会福祉法人の設立を機に事業の拡大を図り昇給基準等を構築する予定である。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記と同様の理由から講習会等に十分な予算が割り当てられないため研修等を受ける機会が限られているが少しでもスキルアップに繋がるように工夫している。就業規定などについて見直していく予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修や連絡会等に交代で参加するように調整し、なるべく多くの職員が外部施設職員と交流を図れるよう促している。近くにあるグループホームの職員と情報交換などを目的に懇親会などの企画を検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居手続き時のアセスメントで出来るだけ多くの情報を得るようにし、得られた情報を基に傾聴と声掛けを心掛け、信頼関係を築けるよう時間をかけて働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に十分時間をとり、施設での生活をご理解いただき、ご家族からの要望や疑問点などをしっかり伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記2項目を参考にし、日々の気づきを場合によっては同じ用紙に書き込むなどの方法により職員間で情報を共有し、必要としている支援、行うべき支援、行ってはいけない支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上からの物言いや○○してあげるといふ介護にならぬよう言動に注意し寄り添う介護を心掛ける。施設名の通りアットホームな関係を築いていく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に来訪する機会を多くしていただき、季節の催し、レクレーション、食事、誕生会等のイベントを共に楽しんでいただき、日々のご様子を理解していただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時刻は規制せず、ご家族、ご友人の面会を受ける。帰宅希望、ご家族との外出希望にはできる限り実現できるように配慮する。思い出のところへの外出なども職員の同行などでできる限り配慮している。	友人が訪ねて来ると居室で談話し、お茶のもてなしをしている。電話の取り次ぎやハガキの宛名書きを支援している。近所の喫茶店やホームセンターへ職員と一緒に出掛けたり、家族と外出したりする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特定の利用者が孤立しないよう声掛けを行い、職員も含めてみなで参加できるようにレクリエーションを行うなどの工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が亡くなってからも運営推進委員となっただいていただいているご家族、退所後自立して生活されている方への訪問など行っているが、殆どできていない。退所したばかりのうちは、ご様子を伺うことはあるが継続して連絡を取ってはいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月開催するフロア会議でそれぞれの利用者の様子を全ての職員が確認・共有し日々の介護に生かしている。ケアプランについても3か月毎に評価し見直している。	普段の日常生活の中で、それぞれの思いや意向を聞き取るようにしている。意向の把握が困難な方は、目を見て、仕草や表情から判断し、本人本位に考えて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のご家族へのヒヤリングや日々の会話の中から把握するように努めている。入所前に利用していた施設からも情報収集するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、業務日誌、連絡ノート等の文書や申し送りで確認し把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開催するフロア会議で話し合った入居者の様子（アセスメントやモニタリング）を基に介護計画を作成し、ご家族の了解を得、実施している。介護計画の評価は3か月毎に行い見直している。年度当初に作成するケアプランについては見直した項目やご家族の意向などを反映したものとす。	毎月のフロア会議で居室担当者を中心に情報交換してモニタリングと意見をまとめ、医療情報を参考にし、家族の希望も入れて介護計画を作成している。3か月毎に、変化があればその都度見直しをしている。介護計画は年度当初に書き直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々にケース記録を作成し職員間で内容を共有し、毎日の申し送りやフロア会議で確認し実践している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば運動不足解消の一手段としてバイタルの計測のために2Fユニットから1F事務室へ階段を使って移動する等、入居者に合わせた対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の大きなイベントには参加できる入居者がいれば出来る限りお連れするようにしているが、サークル等への参加は難しい。防災訓練では近隣の協力者として参加していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として内科、精神科、皮膚科、歯科と契約し、定期健診による日々の健康管理と疾病時の往診治療を行い、ご家族への経過報告や相談も適宜行っている。ご家族の希望により協力医療機関以外の医師の往診も受けている。	入居前のかかりつけ医の往診を受けている1名以外は、全員が協力医の往診を受けている。内科・精神科は月2回、皮膚科、歯科は月1回の往診がある。訪問看護は毎週、健康管理で来訪し、24時間対応している。眼科も往診がある。訪問マッサージも来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任の看護師による、電話での毎日の健康チェック及び週1回の訪問看護での健康管理、体調不良時の対応相談など、24時間対応できる体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院等へは協力医療機関医からの紹介により受診・入院する。退院時には看護サマリー等を参考にし日々の介護を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族と重度化や終末期の対応を話し合い、家族の意向を把握している。終末期に近づいた際にはご家族が参加する主治医とのカンファレンスの機会を設け、再度家族の意向を確認し家族と共に介護するように心掛けている。	入居時に、家族に重度化対応指針を説明し同意を得ている。状況の変化に応じて話し合いを重ね方針を共有し、終末期には医師の判断と家族の協力で支援に取り組んでいる。看取りは昨年2件、今年も2件実施している。多数の職員が外部研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの通読を義務付け、緊急時には専任の看護師と協力医療機関医に連絡し指示を受けるよう指導している。社内ではOJTにより教育、外部研修も受講しているが、実践的な面では充分とはいえない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隔月で夜間想定防災訓練を行い、年1回消防署の指導を受けている。消防計画、防災管理マニュアル等整備し、職員の防災意識を高めている。災害時の備蓄については検討は進めているが社会福祉法人設立による事業譲渡の手続きなどで予算化が出来ず、まだ実現できていない。	年間6回の避難訓練を夜間想定で、うち1回は消防署の立ち会いで実施した。ダミー人形に毛布を巻き、搬送訓練を行った。以前に近隣の方3名の参加があったが、現在は無い。非常用備品は水だけである。	災害時には、地域の人々に理解を求めて、協力体制を築いていくことが必要です。引き続き近隣の人々に声をかけて、連携し支援体制を整備することが期待されます。併せて災害用の食料や備品類を3日分以上備蓄することが望まれます

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を尊重し人生の先輩であることを意識した言葉かけを心掛けている。	言葉遣いや接遇については職員にOJTで指導している。居室に入る時はノックして声かけし、トイレ誘導時の声かけはさりげなく行っている。個人情報に関する書類は鍵付き書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは傾聴し、できるだけ希望をかなえられるように心掛けている。自分の意思を表すことが難しい方についても、できる限り理解するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ず行わなければならない事以外は利用者それぞれの方のペースを大切にするように心掛け、職員の都合で強いることが無いようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する洋服選び、洗顔時のブラッシングの手伝い、外出時の整容の手伝いなど、常に清潔な姿で生活をしていただくように心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、下膳、食器拭きなどできる範囲で利用者と一緒に行っている。毎日の献立でそれぞれの好みを活かすのは難しいが、年に4～5回は鍋パーティー、寿司パーティーなどのイベントを企画している。	給食業者から配送される献立付き食材を職員が調理している。利用者の好みにより代替食に変更することもある。盛り付け、配膳などを手伝う方もいる。職員も一緒に同じものを食べている。外食は年1～2回行く。利用者が職員と一緒におやつ作りをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立なので、なるべく残さず召し上がっていただけるよう声掛けを行い、10時・15時・食前食後・入浴後などの時間にお茶・麦茶などを飲んでいただいている。必要に応じて摂取量の記録も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の後は見守り・介助で全ての入居者が口腔ケアを行っており、毎週月曜日には歯科衛生士による歯磨き指導も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中・夜間を通してトイレでの排泄を基本とし、できる限りおむつには頼らないようにしている。おむつを使用している方も出来る限りトイレかポータブルトイレに誘導し介助している。	ケース記録に排泄チェック状況を記録し、パターンを把握してトイレ誘導している。夜間は時間で声掛けし、誘導している。全介護の方はベッド上でおむつ交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は毎日必ず確認し記録を残し滞りがちな方には冷牛乳や蜂蜜、下剤で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日の入浴は難しいので曜日を決めての入浴となっているが、熱め温めなどの希望に添えるように入浴時間の調整は行っている。	入浴は週2回以上支援しているが努力目標は隔日入浴である。入りたがらない方には、説得したり人を代えて声かけしている。季節にはしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべくリビングで集っていたくようにはしているが、ご自分のペースで参加していただいている。就寝消灯時刻も特には決めておらず、それぞれの方のペースで入床している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については薬局の居宅療養管理指導を利用し予薬の間違いが少なくなる方法での納品とし、職員誰もが確認できるところに処方薬の説明書、薬辞典などを保管し、服薬時は一人ひとり確認しながら予薬する。体調の変化は記録に留め必ず引き継ぐ職員に申し送る。臨時薬の管理も薬局で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物畳み、針仕事などできることはお手伝いしていただき、役に立っていることを実感していただけるように促し、歌・トランプ・あやとりなど馴染の遊びを毎日のレクリエーションに取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻繁に外出することは難しいが、近隣の散歩、お花見、イチゴ狩りなど出かける機会を多くするように心掛けている。限られた方にはなってしまうが、町内の祭り、酉の市、喫茶店などにお連れしている。	近所の散歩コースが二つあり車の往來の少ない所へ、車イスの方も一緒に出ている。コンビニエンスストアや商店に買い物にも行く。初詣、花見や苺狩り、紫陽花見物にはユニット毎に、車で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は全て認知症であるので金銭管理は難しいため、日常使用する化粧品や下着などの買い物と一緒にに行くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人やご家族への連絡を希望される方には事務所から電話を掛けていただいたり、ご家族からの贈り物への礼状を出していただいたり、ご家族へ年賀状を出していただいたりのお手伝いをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような装飾、場に合わせたCDやDVDの音楽や映像、室温・換気・湿度の管理など心地良い環境づくりに留意している。	リビングは窓が大きく採光が良い。加湿器を置き乾燥対策をしている。玄関や廊下に職員等の描いた大型の本格的な油絵を飾り、癒しとなっている。壁には行事、外出時の写真を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が集う場所としてはリビングになるが、スペース的に余裕が無く少人数で集う場所を確保することはできないため、隣り合う方の調整などで工夫している。一人になりたいときには居室に誘導している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・カレンダー・花・季節の飾りなどはご家族と一緒に飾っていただくようにし、家具などは入居者が使用していた馴染の物を持ってきていただくようお願いしている。スタッフは居室の整理整頓を心掛けている。	エアコンと照明器具が設置され、ベッドや整理ダンス、三面鏡、テレビなどなじみの備品を配置している。壁に家族写真を飾り、ベッド周りにぬいぐるみも置いて、気の休まる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には入居者の名札を掲げ、トイレや浴室などには室名を表示し、入居者の動くところには手摺を設置するなど、できる限り自立した生活が送れるように配慮している。		

報告書受理日

平成26年6月2日

目標達成計画

事業所名 グループホーム和が家

作成日 平成26年5月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流は多くなってきているが、参加している人数や参加している人数を考えると、まだまだ十分とはいえない。	更に地域との交流を図っていききたい。	地域の方も参加していただけるような施設主催のイベントを企画できていない。本年度は実現できるように努力する。	12ヶ月
2	12	収益の増加が見込めず昇給が難しいという条件は変わらず、さらに消費税の増税で厳しさを増している。	人事評価基準の作成。 昇給基準の作成。	法人として運営や経費を見直し昇給範囲の可能性を検討する。 職員其々には介護力向上の短期及び長期の目標を設定し達成に向け努力することを義務付け、年1回各職員の昇給を伴う評価を行う。	24ヶ月
3	13	資格取得に対するサポート及び取得後の優遇制度が無い。	資格取得者に対する優遇制度を設ける。	上記同様、法人として運営や経費の見直しを行い資格手当の予算化の可能性を検討し実現できるように努力する。	12ヶ月
4	26	予定通り3ヶ月毎の見直しを行い、新年度の介護計画には反映できたが、作成前にご家族へヒヤリングする時間がとれず、ご家族への説明と意向の吸い上げが十分とはいえない。	介護計画作成前に家族と協議する時間を設ける。	介護計画作成前に1年分の見直し記録を提示し、家族の意向を伺い計画に反映してから確認・了承を得る。	12ヶ月
5	35	予算化が難しく災害時の備蓄品の準備が不十分。	災害時に必須の食材及び備品を洗い出し適切な数量を用意する。	備蓄量の把握はできているが費用が捻出できず実現できていない。費用の調達を検討し必要量の備蓄を図る。	12ヶ月

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。